

富岡東市民の森案内

T1

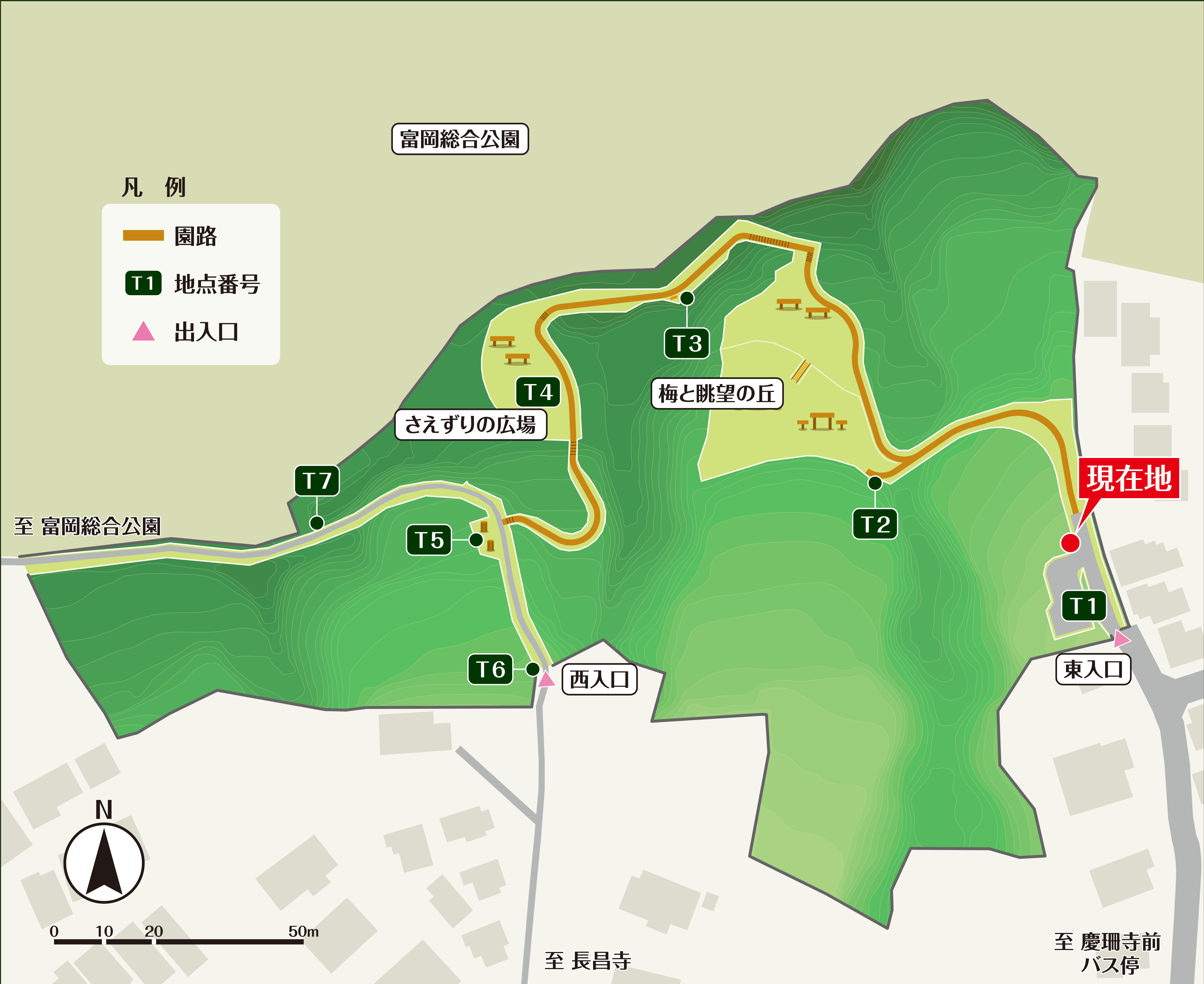


市民の森は、市内に残された緑を守り育てるとともに、市民の皆さまが身近に自然に親しむことのできる樹林地です。皆さまひとりひとりがやさしい気持ちで利用して、きれいな森にしましょう。

利用時間は日の出から日の入りまでです。



問合せ先
横浜市南部公園緑地事務所 TEL:045-831-8484



フィールドマナー

- ペットはつないで
Keep Pets on Leash
- 動植物をとらないで
Do Not Remove Wildlife
- 火気を使わないで
No Open Flame
- ごみは持ち帰ろう
Take Your Trash with You
- まわりの人に迷惑をかけないで
Avoid Disturbing Others
- 生きものを捨てない、放さない
Do Not Abandon or Release Animals
- あぶないボール遊びはしない
No Dangerous Ball Games
- 道からはずれない
Do Not Stray from Paths
- 自転車・バイクを乗入れない
No Bicycles or Motorcycles Allowed
- 煙草を吸わないで
Do not Smoke

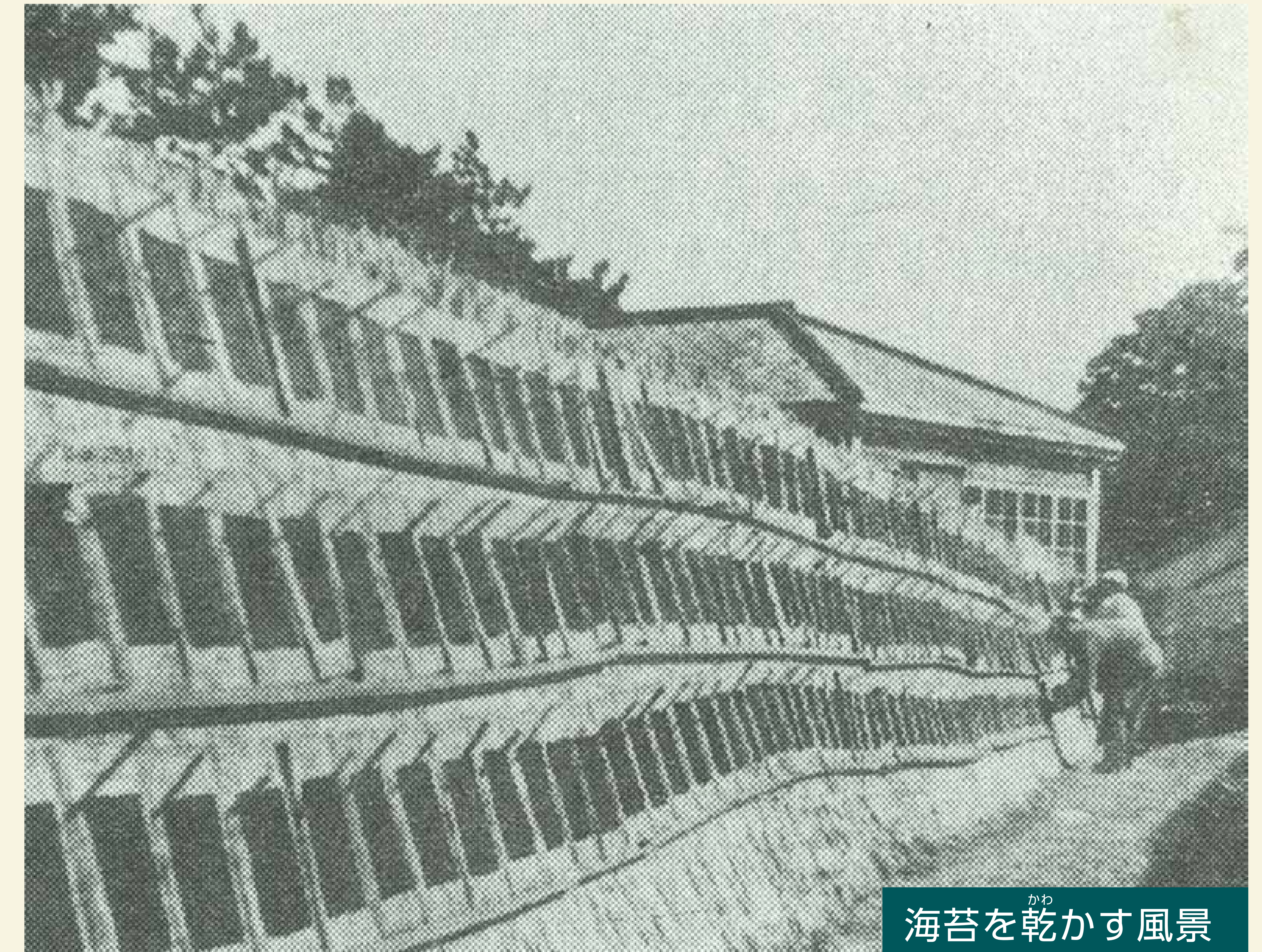
土地の記憶 きおく ～人と自然の暮らし～

T2

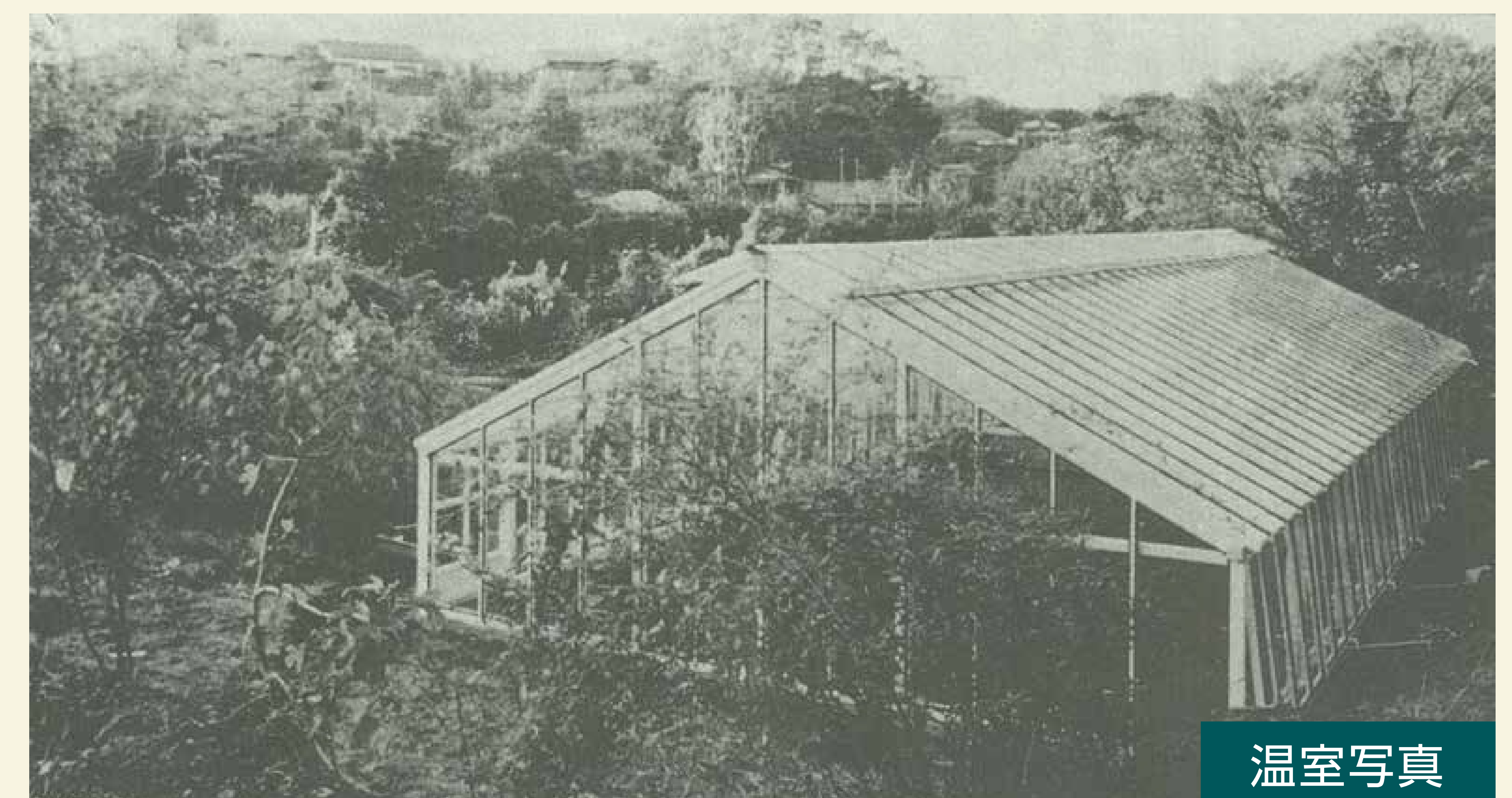
富岡は、丘陵と断崖から構成される地域でありながらも、海に近く温和な気候で海の幸・山の幸の豊かな土地であった。花き園芸や果樹栽培が盛んで、古くは江戸時代の享和の頃(1801-1804)には数万株の梅を植え、梅の実で収益をあげていた。また開花の時期には梅見客で賑わい、文人墨客も数多く訪れた。

大正時代には富岡の丘陵地には草花を栽培する温室が建てられ、西洋花きにおいては、富岡は全国的に有名な土地となった。また、大正時代から始まった海苔養殖によって、海苔干し場としても利用された。

現在の富岡は、当時の産業の痕跡こそ薄れつつあるものの、暖かな日差しの注ぐ丘陵と海に囲まれた穏やかな風景の中に、かつて人々が自然と共に築いた暮らしの記憶が静かに息づいている。



海苔を乾かす風景



温室写真

写真：伸びゆく富岡写真史

とみおか 富岡の海岸線

T3

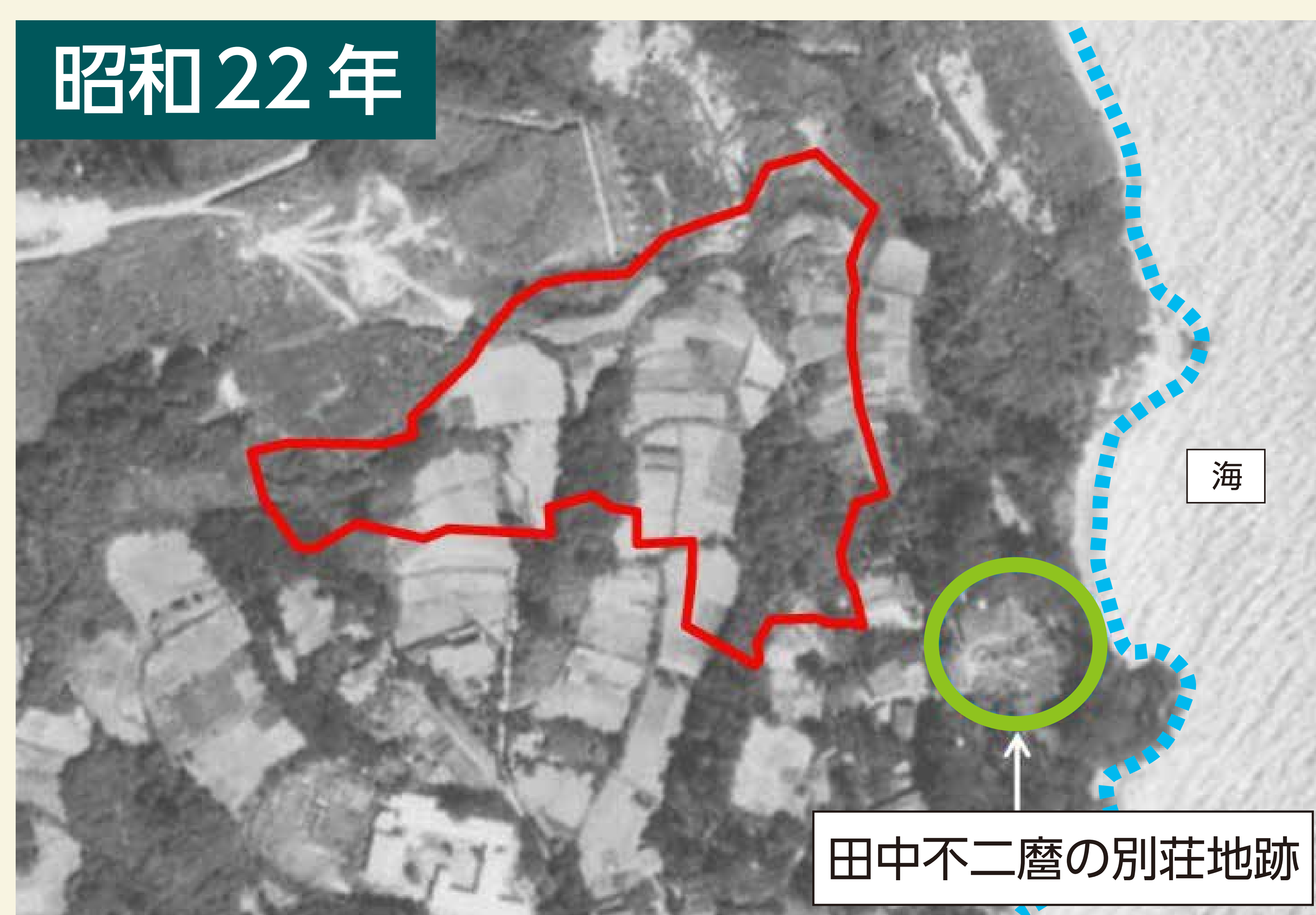
本市民の森が位置するかつての富岡海岸は、海崖の多い特徴的な地形で、マツ、クスノキ、シイ、ケヤキなどの大木が生い茂る景勝地であった。

明治時代の富岡海岸周辺は、政財界などで活躍した人々が別荘を構えるほど、東京湾を望む風光明媚な場所であった。三条実美、井上馨、伊藤博文、松方正義、大鳥圭介、田中不二麿などの政界の要人たちが次々に別荘を構え、「夏は富岡で閣議が開ける」とまでいわれるようになっていた。

戦後の高度経済成長期以降、急激な人口増加に伴い、住宅市街地開発が進展し、金沢区では海の埋立てや丘陵部の造成などが行われたことにより、海岸線は富岡から遠く離れていった。

本市民の森はかつての海岸線沿いの様子を残した小柴自然公園、富岡八幡公園、富岡総合公園等をつなぐ緑のネットワークの一部となり、富岡海岸の面影を今に伝えている。

※海崖：波や潮流によって侵食されてできた崖



別荘跡地は富岡海荘図巻から推定



赤枠は富岡東市民の森の範囲

出典：国土地理院ウェブサイト <https://service.gsi.go.jp/map-photos/>
空中写真（地図・空中写真閲覧サービス）を加工して使用